

広報佐野日大

SANONICHIDAI



vol.
227
2021.1.30



ドラフト2位指名“北海道日本ハムファイターズ”入団決定！ 五十幡選手来校

TOPICS

- ・【新年にあたって】年頭の辞
- ・【サニチフラッシュ】
フィギュア・ゴルフ全国大会へ
月壇中学 オンライン国際交流
シトラスリボン IN さにち



年 頭 の 辞



未来への希望に向け 新時代の教育を

理事長 長谷川 弘

新年あけましておめでとうございます。旧年中は本学園に対し格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。本年も昨年同様、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスの感染拡大は、記念すべき「オリンピックイヤー」となるはずだった2020年を一変させました。特に2月28日、文科省からの臨時休校要請は、全国の教育機関に大きな混乱を引き起こすものとなりました。各学校において教育活動が制限され、学生・生徒だけでなく保護者の皆様も大きな不安を感じられたことと推察いたします。

しかしコロナ禍の中、諸外国より遅れていると指摘されていた日本の教育現場がオンライン対応を余儀なくされ、半ば強制的にデジタル化されたことは、別の側面における進化をもたらしました。「人間万事塞翁が馬」、このことは、従来「対面型」に偏っていた教育活動のあり方を根本から問い直す機会となりました。本学園でもオンライン授業への対応がすぐに始められ、「学びを止めない」を共通認識とし、迅速かつ積極的な対応ができたものと、いささか自負しております。

そして、このICT化への流れは不可逆的なものであり、今後さらに加速するはずでです。昨年春からサービスが開始された第5世代移動通信システム「5G」はIoTとの連動により、教育現場も含め革新的な活用が期待されます。たとえばすでに国内でも、新型コロナウイルス感染予防としてロボットを遠隔操作したり、自宅にいながら登校時と同等の教育を受ける手段としてのアバターロボットの開発が進んでいます。

今、社会はコロナ禍と急激なICT化により、「変化へ適応する力」が厳しく問われています。しかし本学園は常に時代の変化を先取りした教育を行ってきました。逆境に立ち向かい、変化を恐れない果敢な姿勢は、むしろチャンスを引き寄せます。これからも私たちは、激変する未来に大きく飛躍する学生と生徒を育てる教育活動に、全力で取り組む所存です。

昨秋、佐野日本大学短期大学では学園祭の代替として「SANOTAN FESTIVAL～希望の灯りをともそう～」を開催いたしました。コロナ禍により創立30周年に向けた計画の見直しを余儀なくされる中、学生の皆さんを中心に企画立案され成功を収めました。キャンパスを彩るイルミネーションは神々しく輝き、困難に負けない勇気と感動、そして未来への希望を与えてくれます。

最後になりましたが、新しい年が皆様にとってすばらしい一年となることをお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



困難を乗り越え新しい未来へ

学園長 浦田 奨

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと存じます。また今年も本学園に対し、格段のご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

昨年の新型コロナウイルス感染拡大は、世界中の人々の生活を根本から変えるものでした。日本でも多くの店舗や施設が営業自粛を余儀なくされ、経済に大きな打撃を与えました。そして一方で、学校の休校に伴うオンライン授業や、多くの職場で普及したテレワークなどデジタルツールの活用が急速に進み、それまで常識であったことの多くが覆されました。今後、感染が完全に終息したとしても、社会が元に戻ることはないと言われます。

振り返れば、過去に幾度となく繰り返された自然災害による甚大な被害から人々を救ったのは、自分のことはまず自分で守るという「自助」の意識に、人々が主体的に助け合うという「共助」の心が重なり合った力でした。なんの前触れもなく、社会構造そのものが一瞬で変わってしまうこの不透明な時代だからこそ、自己の利益だけにとらわれることなく、すべての人が新しい生活のあり方を積極的に構築していく姿勢が求められます。

日本大学の教育理念「自主創造」には、「自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく」という、この困難な時代を生きるための指針があらわれています。そして私たち佐野日本大学学園はこの精神に基づき、「時代を先取りする教育」を常に実践してきました。新型コロナウイルス感染拡大による休校要請を受けた時、すぐにオンラインによる授業配信を開始し、「教育の危機」を乗り越えることができたこと、また対面授業と大きく変わらない指導体制に、多くの保護者の皆様から喜びの声をいただいたのも、未来を見据えた教育を展開する本学園の成果だと考えています。

「かんなんなんじ艱難汝を玉にす」という言葉があります。西洋のことわざの意識ですが、「人間は困難を乗り越えてこそ、立派になる」という意味をあらわしています。先の見えない変化の激しい時代だからこそ、そこで経験する困難に大きな意義があるのです。これからも私たちは、学園で学ぶすべての若者が逆境をたくましく乗り越える力強さを身につけ、この佐野の地より世界に向けて羽ばたいていける人材に成長できるよう全力で取り組んでまいります。

最後になりましたが、皆様の一年が希望に満ちたすばらしいものとなることを祈念し、年頭の挨拶とさせていただきます。



ビッグアイ さきがけ BIG-I 百花の魁の人に

校長 渡邊 明男

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、昨年12月、2年生の研修旅行で宮城県を訪れました。宿泊したホテルで、生徒の皆さんとともに食事会場へと向かう通路わきに、立派な書が展示されていました。

庭上一寒梅	庭上の一寒梅
笑侵風雪開	笑って風雪を侵して開く
不争又不力	争わず また力めず
自占百花魁	自ずから百花の魁を占む

これは明治時代に教育者として活躍した新島襄が、最晩年に残した五言絶句で、その意味は、

庭先に咲いた一輪の早咲きの梅。
つらい風や雪の耐えがたきに耐え、平然として笑うかのように咲いている。

他者と争うわけでもなく、また力むのでもなく、それでいてあらゆる花のさきがけとなって咲いている。
(人もそのようにありたいものである。)

と、なるでしょうか。

明治の時代にあって、デモクラシーを体得した独立自尊の人間を育成することを通して、日本の近代化を推し進めようと尽くした彼の姿を、彷彿とさせます。

ところで今、世界、そして日本は、新型コロナウイルスの感染拡大によって大きな混乱の中にあります。健康への不安はもちろんのこと、経済的な危機感や様々な行動の制約に、社会全体が日々息苦しい思いをせざるを得ない状況です。新しい生活様式の順守を余儀なくされ、わずか一年ほど前には当然の事だと思っていた、自由で伸びやかな生活を楽しむこともできません。まさに世界中の人たちが、つらく苦しい環境を耐え忍んでいるのだと言えるでしょう。

そのような中、本校では、従前より取り組んできたICTを活用した教育により、コロナ禍で家庭学習をせざるを得ない状況にあっても「学びを止めない」対応を展開してきました。5・6月の2か月間に先生方が配信した動画数は1500本を超えました。またZoomなどによる双方向リアルタイムのオンライン授業、メールを活用した添削など様々な形を組み合わせた授業の展開が可能となっています。その成果の一つとして、日本大学付属校の基礎学力到達度テストにおいても、本校の生徒の皆さんの学力が向上していることが明確に示されました。これは生徒の皆さん、保護者の皆さん、そして教職員一同が、困難な状況にあってもしっかりと手を携え、ICTを活用した学習活動・教育活動に取り組んできた成果であると確信しています。

現在本校では、ICT教育はもちろんのこと、グローバル教育、探究学習にも力を入れつつ、基礎学力・応用力の育成に取り組み、生徒の皆さん一人ひとりの希望進路の実現と、これからの社会で活躍できるダイナミックな人材の基盤づくりに取り組んでいます。この4つの教育の柱(Basic, ICT, Global, Inquiry-based Learning 頭文字を取ってBIG-I)を基軸に、どのような困難な時代にあっても、力強く「社会の魁(さきがけ)」となるような人を育てる、先進的な教育活動にこれからも取り組んで参ります。引き続き本校の教育に皆様のご理解とご協力を賜りますよう、教職員一同心よりお願ひ申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



教養ある人材育成が使命

日本大学学長 加藤 直人

年頭にあたり、一言ご挨拶をさせていただきます。昨年来の新型コロナウイルス感染症の世界的流行は、健康上の被害だけでなく、国家間における人的交流の停止など、グローバル社会の根底に関わる大きな問題を引き起こしました。本学でも、学生、教職員の生命を守ることを最優先に、教育活動を継続・展開しています。学生、教職員の皆さまには、困難な状況の中でご協力いただいていることに心より感謝申し上げたいと存じます。

さて、世界は急速にAIやロボティクスの道を進み、学生たちは将来その社会の中で活躍が求められます。あらゆる情報が知識として容易に入手できる時代です。教員は、専門的な知識や技術を教授するだけでなく、それらを社会で生かしていく「術(すべ)」を学生に身に付けさせるよう導いていく必要があります。

また、AIやロボティクスの波は、既存のビジネススタイルを変え、人間は、人間でなければ答えの出せない事項にのみ対応していくかたちへと移っています。その中で求められるのが、人間が人間であるべき基本的な知識、いわば広くかつ深い「教養」です。本学は、幅広い学問分野を包括する総合大学であり、総合力を生かした教養を兼ね備えた人材を育成することが使命であります。

予測できない社会の中、また世界に広がるAIやロボティクスの波の中で学生が目標を達成する力を身に付けられるよう、それに向けた教育目標を示していきますので、教職員の皆さまには一丸となって教育活動を行うよう、ご支援をお願いしたいと存じます。





五十幡選手、来校（写真3）

ドラフト会議で北海道日本ハムファイターズから2位指名を受けた五十幡亮汰選手（平成28年度卒）が、12月15日（火）に本校を訪問した。五十幡選手は本校在学中、中心選手として活躍し、チームを牽引していた。中央大学進学後も令和元年度東都大学野球秋季リーグ戦で15年ぶりの優勝に貢献するなど、本校卒業後も多大な活躍をした。

月壇中学とのオンライン交流（写真1）

11月10日（火）、本校大会議室において、北京市月壇中学とのオンライン交流が実施され、昨年度月壇中学を訪問した生徒や中国語講座を受講している生徒が学校の代表として参加した。ホストファミリーとの再会、両国の文化紹介などを行い、大いに盛り上がり、交流を深めた。

「まちづくり部」発足！高校生のチカラで、地域創生を！！（写真4）

11月30日（月）「まちづくり部」の初めての懇談会が行われた。佐野市と本校が協働で実施する地域創生の取り組みである。高校生のチカラとアイデアを活かし、佐野の魅力を発信していくことをねらいとしている。佐野市職員による概要説明の後、意見交換会が行われた。高校生らしいアイデアや意見がたくさん出て、有意義な時間となった。今後は佐野市内のフィールドワークなどを通して、考えを深め、佐野の魅力発信のための企画・プレゼンテーションをしていく予定である。

シトラスリボン IN さにち（写真2）



コロナ禍で生まれる差別、偏見をなくしたいという願いから始まった「シトラスリボンプロジェクト」に学校をあげて取り組んでいる。昨秋からインターアクト・クラブの部員たちが中心となりクラスや部活動の中で活動を広げてきた。みんなで安心して暮らすことのできる学校や社会をつくっていこう。

フィギュアスケート 3年連続全国大会出場！（写真5）

1月21日（木）から長野市若里多目的スポーツアリーナ（ビッグハット）にて、第70回全国高等学校スケート競技・アイスホッケー競技選手権大会が開催され、佐藤紗菜さん（3年・小山・小山第二中）が会場／ビッグハットにて出場。惜しくも決勝進出を逃した。なお、佐藤さんは、高校1年次より全国大会に3年連続で出場している。

ゴルフ部 全国大会出場決定！（写真6）

12月25日（金）、千葉県一の宮カントリー倶楽部にて関東高等学校ゴルフ選手権冬季大会（全国春季大会予選大会）が行われ、男女6名が出場。そのうち下記3名の全国大会への進出が決定した。結果は下記の通り。

- 第5位 康 翔亮（2年・日大豊山中） 69ストローク
- 第14位 松澤 虎大（1年・石岡・石岡中） 71ストローク
- 第20位 松枝 靖悟（2年・下野・石橋中） 72ストローク

※写真は第5位入賞の康翔亮さん。



令和2年度は様々な学校行事が中止となりました。そこで、学校全体を盛り上げるイベントとして「マスコットキャラクターコンテスト2021」を開催します！

創造力を集結させ、「未来の佐野日大のカタチ」となるマスコットキャラクターを作り上げましょう！在校生のみならず、保護者の方、卒業生、一般の方など、どなたでも応募できます。ご応募お待ちしております！

詳細は特設サイトをご確認ください。（上記QRコード）

編集
後記

昨年春に引き続いての二度目の緊急事態宣言の発出。このような中であって、多くの生徒の活躍を紹介できる。大変喜ばしい限りである。「学びを止めない」を共通認識とし、4つの教育の柱（BIG-I）を軸に、今年もさらなる「学び」の充実に向けて邁進したい。（平野記）

広報佐野日大 VOL.227

佐野日本大学高等学校 栃木県佐野市石塚町2555
☎0283-25-0111(代) http://high.sanonihon-u-h.ed.jp